



Bank of Yokohama

個人投資家向け説明会

平成26年2月

横浜銀行 (東証1部:証券コード8332)

今日、お話する内容 (目次)

1. 横浜銀行について

2. 横浜銀行の取り組み

3. 中期経営計画の概要

4. 横浜銀行の業績

5. 株主の皆さまへの取り組み

6. 横浜銀行のパフォーマンス

参考資料



1. 横浜銀行について～横浜銀行の歩み

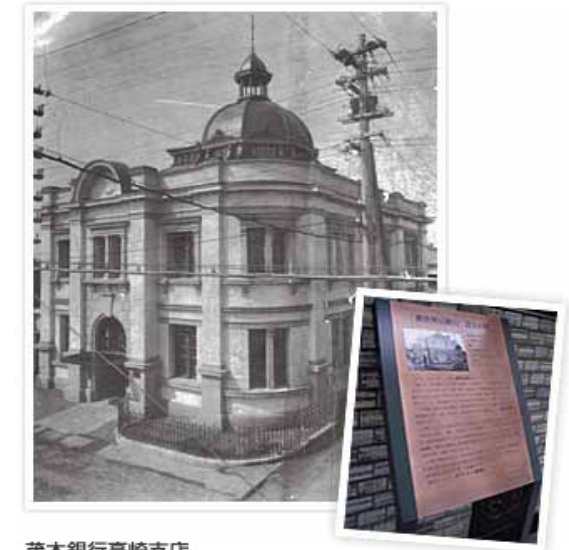
- 大正9年 横浜興信銀行設立～ 地元財界の総意のもと、横浜最大の普通銀行であった**七十四銀行の破たん処理のため設立**

- 昭和3年 第二銀行の営業譲渡を受ける～



横浜為替会社（のちの第二国立銀行、第二銀行）

第二銀行の前身は明治2年に設立された横浜為替会社（日本初の会社組織の金融機関）であり、この横浜為替会社を起点とすると、**当行は144年の歴史を持つ日本で最も歴史の長い銀行といえます**



茂木銀行高崎支店

横浜興信銀行設立の碑

- 昭和20年 神奈川県唯一の地方銀行となる～ これまでに31行の銀行と合同
- 昭和32年 横浜銀行へ行名変更
- 昭和36年 東証一部へ上場
- 昭和44年 預金残高が地方銀行トップとなる～ **積極的に海外展開**をおこない、ミニ都銀を目指す
- 昭和62年 上場最高値2,200円を記録～ バブル景気を背景に、順調に業績を拡大
- 平成10年 公的資金を導入～ バブル崩壊後に海外業務から撤退し、**神奈川県に回帰**。平成16年**公的資金完済**
- 平成20年 浜銀TT証券株式会社の営業開始～ 東海東京証券との共同出資により**証券子会社を設立**
- 平成21年 上海支店開設～ お客さまの**アジア進出支援強化のため**、**上海駐在員事務所から支店へ昇格**

1. 横浜銀行について～成長ポテンシャルの高い経営地盤

- 経営地盤である神奈川県は、今後も人口の増加が見込まれ、経済規模を表す指標は全国で上位に位置するなど成長ポテンシャルが高い地域です。

神奈川県の指標

総人口(H24年10月)
906.7万人 (2位/47都道府県) (東京、神奈川、大阪)

就業者数(H24年平均)
453.6万人 (2位/47都道府県) (東京、神奈川、大阪)

県内総生産(H22年度)
29.8兆円 (4位/同) (東京、大阪、愛知、神奈川)

製造品出荷額等(H23年)
17.5兆円 (2位/同) (愛知、神奈川、大阪)

学術・開発研究機関数(H21年)
559か所 (2位/同) (東京、神奈川、大阪)

開業率(H24年)
4.33% (3位/47都道府県) (東京、沖縄、神奈川)

サラリーマン年収(H24年2月)
394.8万円 (2位/47都道府県) (東京、神奈川、愛知)

住宅地地価上昇率(H25年9月)
0.1% (4位/47都道府県 全国平均: 1.8%)
(愛知、宮城、東京、神奈川)

新設住宅着工件数(H24年)
6.9万戸 (2位/47都道府県) (東京、神奈川、大阪)

病床数(H24年)
821.0床/10万人 (47位/同) (愛知、埼玉、神奈川)

成長ポテンシャルの高い神奈川県

人口はH27年まで増加が予想される
(川崎市の人口はH42年まで増加が予想される)

人口の社会増もあり、多くの就業者が住む
デンマーク、タイを上回る経済規模である
自動車等の高付加価値な製造品を生産している

JAXA・理研などの公的研究機関や、大学、
大企業の開発研究機関などが集積している

新しい企業が生まれやすい環境である

高所得なサラリーマンが多く住む

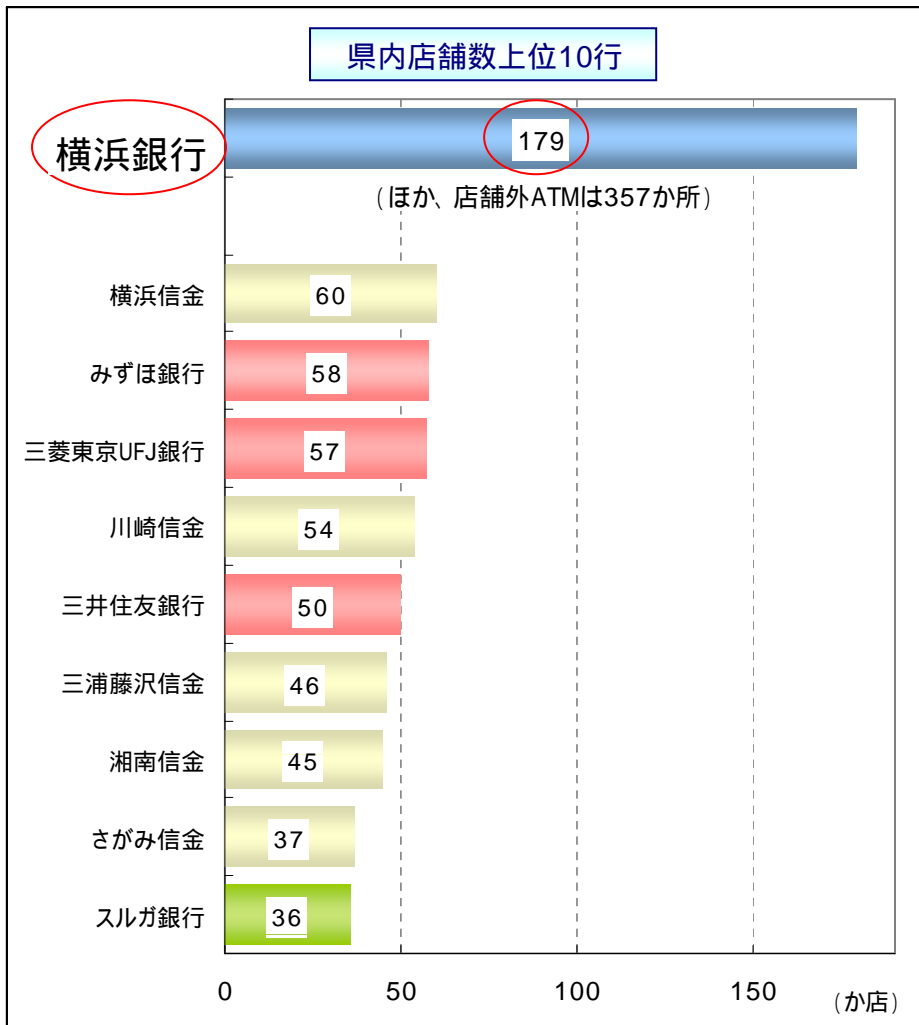
住宅と商業地ともに基準地価が上昇している

住宅地として人気が高い

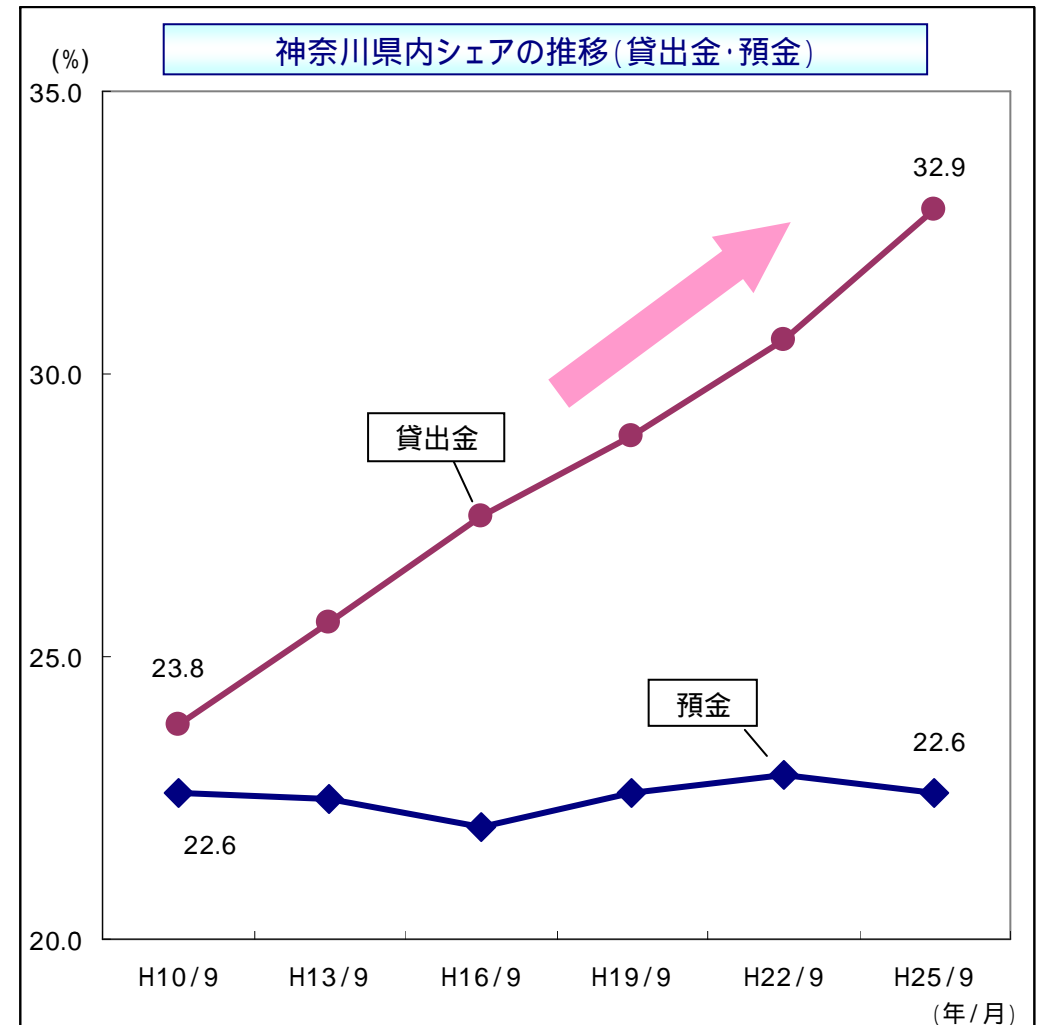
病床数が相対的に少なく医療介護ニーズが高い

1. 横浜銀行について～充実した店舗網・貸出シェアの拡大

- 稠密な店舗ネットワークを構え、お客さまにとって身近で便利な銀行です。
- 地域に深く根ざした活動を行い、貸出シェアが拡大しています。



(注) 有人店舗数 (H25年9月末時点、当行調べ)



(注) シェアはゆうちょ銀行・信組・農協を含まないベース (当行調べ)

2. 横浜銀行の取り組み～地域の皆さまのお役に立つ銀行

- お客さまの「ためる」、「ふやす」、「かきる」、「そなえる」のニーズにお応えする身近な銀行を目指しています。

“決済”や“貯蓄”のための預金

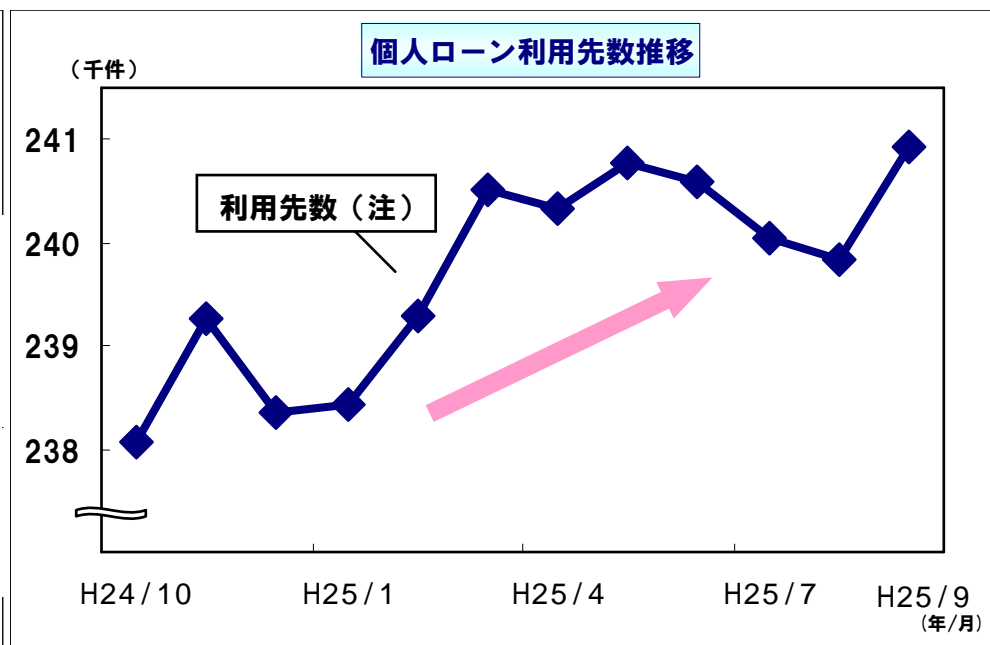
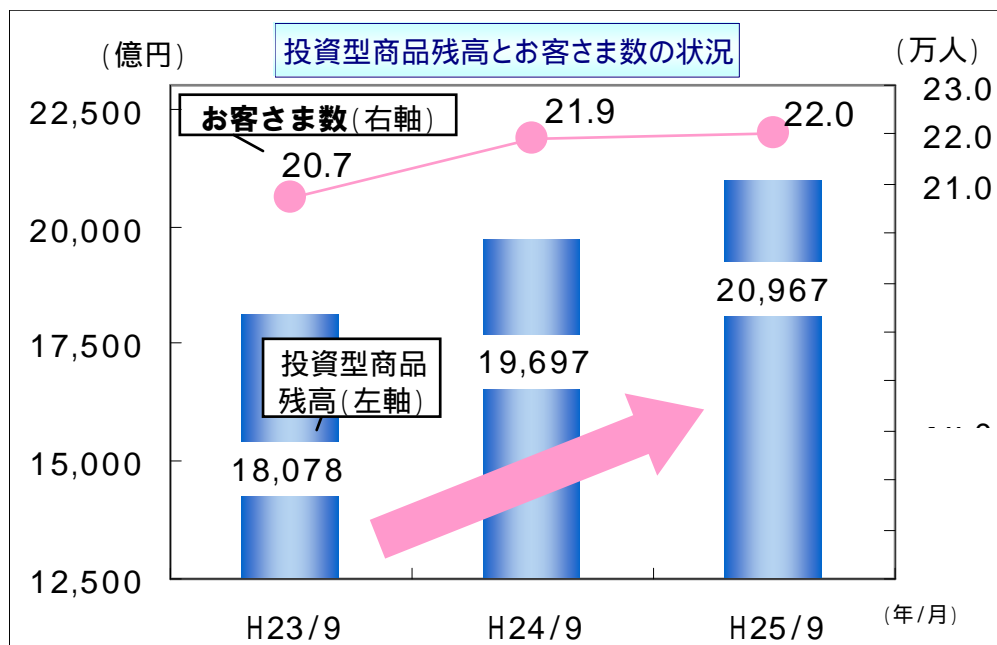
資産を増やすための投資信託・NISA・保険

・公共債・株式や仕組債(浜銀TT証券)など

自宅購入のための住宅ローン

ライフイベントに応じた消費系ローン
(教育ローン、マイカーローン、リフォームローンなど)

急なお支払などのためのカードローン
(住宅ローン利用者専用バンクカードローン、
横浜銀行カードローンなど)



(注1)「お客さま数」は当行で投資信託、保険をご利用いただいているお客さま数

(注2)投資型商品残高:横浜銀行および浜銀TT証券の投資信託+年金保険
+終身保険+公共債+外貨預金+株式+債券+外債・仕組債

(注)個人ローン利用先数:住宅ローン先数+アパートローン先数+消費系ローン先数
+カードローン先数(各ローン月末残高のある先数)

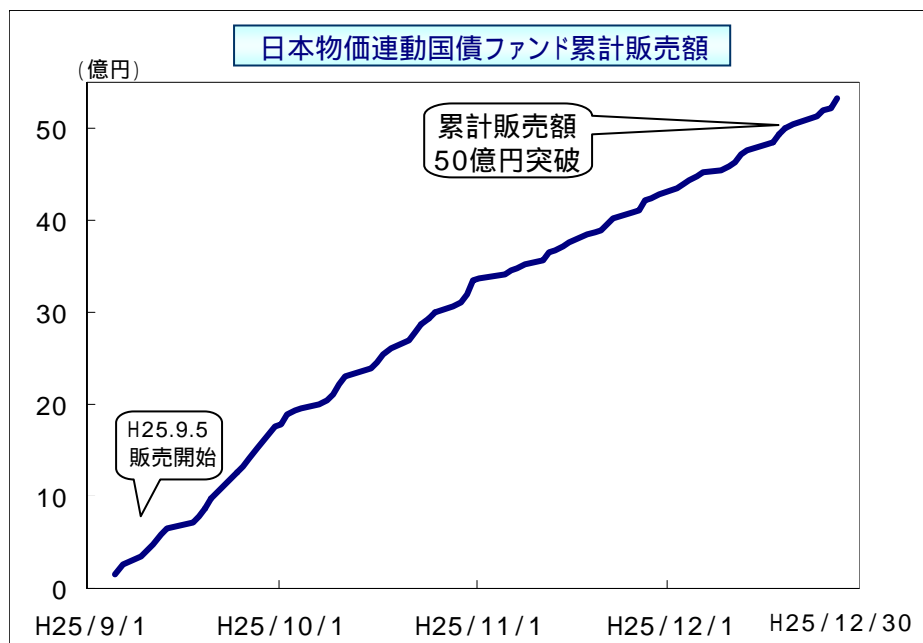
2. 横浜銀行の取り組み～地域の皆さまのお役に立つ銀行

- 大きく変化する日本経済の状況を見すえ、お客さまの資産を「まもる」ニーズにお応えしています。
- 長寿社会におけるお客さまのさまざまなニーズにお応えし、遺言信託や遺産整理業務などの相続関連業務に加えて、個人信託も取り扱っております。

インフレからお客さまの
お金の価値をまもるための投資信託
(日本物価連動国債ファンドなど)

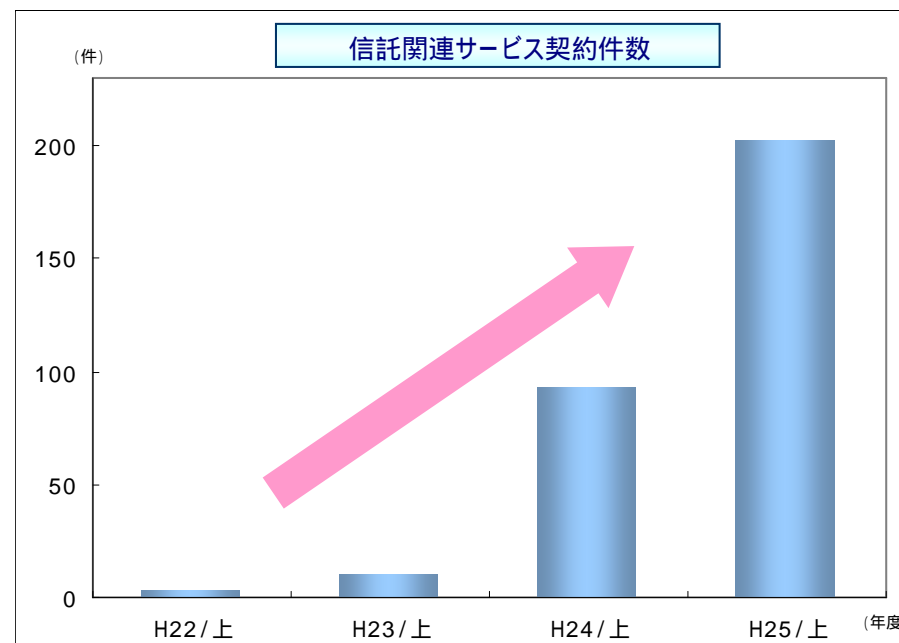
日本物価連動国債ファンドとは

物価水準の変化に連動して元本額が変動する国債に投資する投資信託です。



お客さまの意思を実現するための遺言信託
相続が発生して
お困りのお客さまのための遺産整理業務

お客さまの財産の
管理・運用・承継をおこなう個人信託



2. 横浜銀行の取り組み～法人のお客さまのニーズにお応えする銀行

- 「創業」や「成長」など、企業の成長ステージ毎のご融資に加え、当行グループの機能を結集して、コンサルティングサービスを提供しています。

創業・ニュービジネス、成長企業の支援

→経営コンサルティング(浜銀総合研究所)

多様な資金調達方法の提供
(成長支援ファンドなど)

ビジネス関連情報の提供による経営支援

→商談会(ビジネスマッチング)

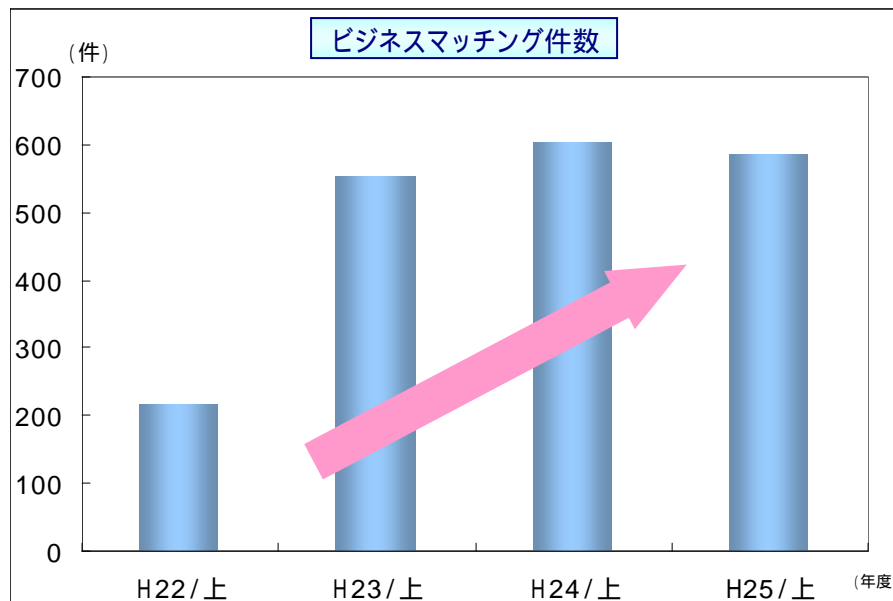
→公的補助金の情報提供

M & Aによる事業拡大・事業再編の支援

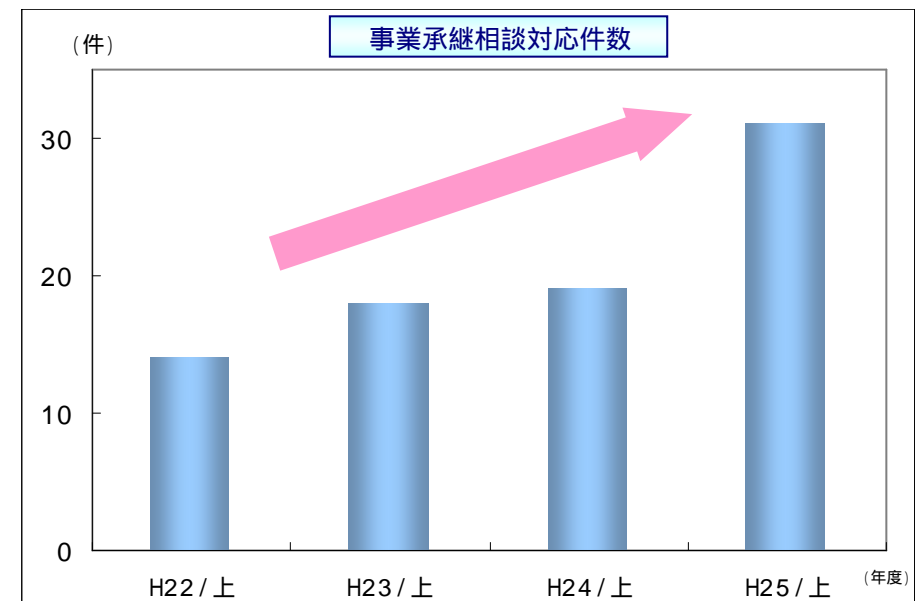
事業承継や経営改善の支援

事業承継セミナーの開催

「かながわ中小企業再生支援ファンド」による
企業の経営改善支援



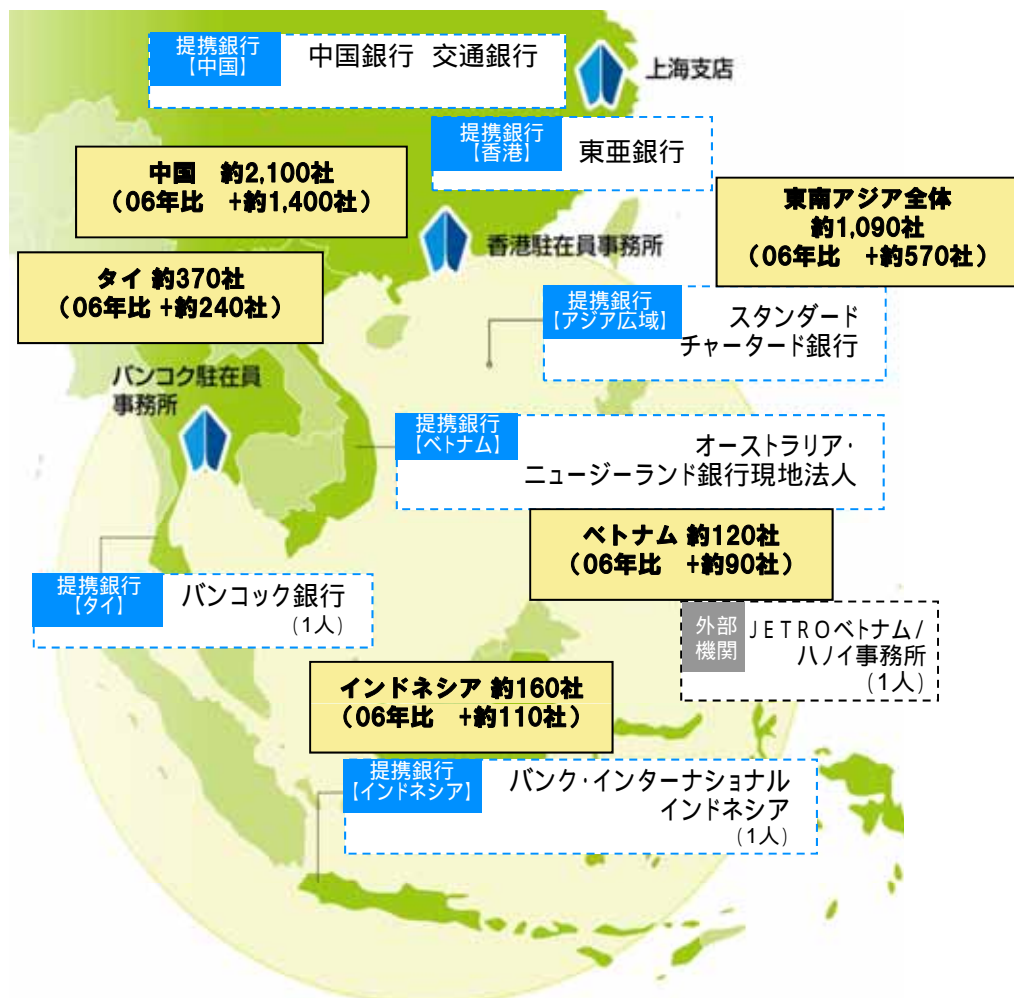
(注) ビジネスマッチング件数: お客さま同士の面談件数



2. 横浜銀行の取り組み～法人のお客さまのニーズにお応えする銀行

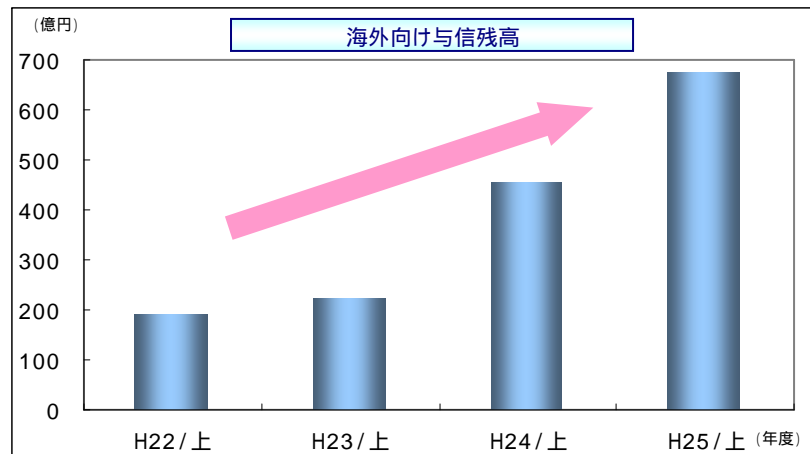
- 海外拠点や提携海外銀行とのネットワークをいかし、お客さまの海外取引をサポートしています。
- 海外での企業の「資金ニーズ」や「貿易ニーズ」に積極的にお応えしています。

アジアにおける支援体制

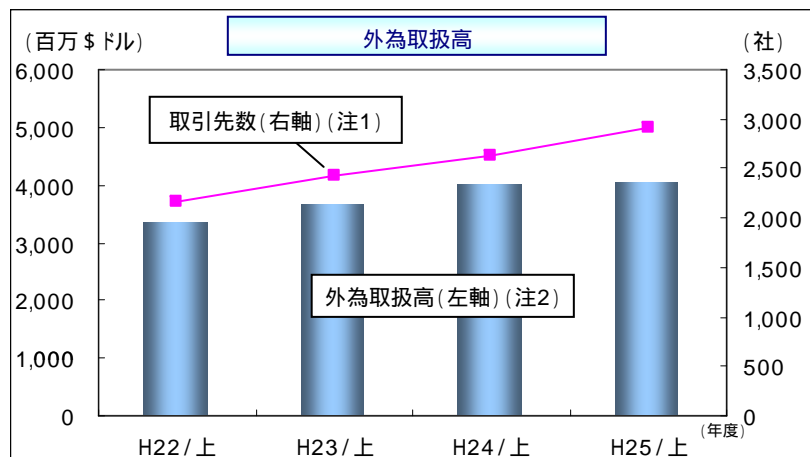


(注1) ()内の人数は横浜銀行からの出向者数
 (注2) 社数は当行お客さまの進出数

海外での資金面をサポート



貿易を支える外為取引サービス



(注1) 取引先数は合計1,000米ドル以上の取引先数
 (注2) 外為取扱高は法人、公共、金融法人の合計

2. 横浜銀行の取り組み～CSR活動に積極的に取り組む銀行

- 地域の未来を創る取り組みとして、美しい自然を次世代の子ども達へ引き継ぐための環境保全活動や、子ども達の無限の可能性や個性を伸ばすための育成活動をおこなっています。

■ 地域社会貢献活動を通じた環境保全

- 環境保全活動へのボランティア参加
茅ヶ崎海岸でのビーチコーミング
上大岡で河川の清掃活動など
- 川崎市：市民100万本植樹運動への参加



茅ヶ崎海岸での
ビーチコーミングに参加

川崎市民100万本
植樹運動に参加



可能性や個性を伸ばす育成活動

- はまぎんこども宇宙科学館での
はまぎんキッズ・サイエンスの開催
- こども未来ミュージックプログラム
- 横浜銀行カップ
神奈川県学童軟式野球選手権



楽しく遊びながら学ぶ
はまぎんキッズ・サイエンス

親子で楽しめる
ミュージックプログラム



3. 中期経営計画の概要

1. 名称

中期経営計画「Tackle for the Dream」

2. 計画期間

平成25年4月～平成28年3月(3年間)

3. 位置づけ

長期ビジョン()実現に向け、「磐石な営業基盤」を拡大・深化させ、「強靱な経営基盤」を維持・強化していく3年間

()長期ビジョン:お客さま、株主、行員、地域社会にとって魅力あふれる金融機関

4. 基本戦略

個人のお客さまとの接点拡大と取引の深化
法人・公共のお客さまの問題解決支援とメイン取引拡大
市場運用のリスク・リターン向上
効率的なオペレーションによる生産性向上
強靱な経営基盤の維持・強化

5. 経営目標

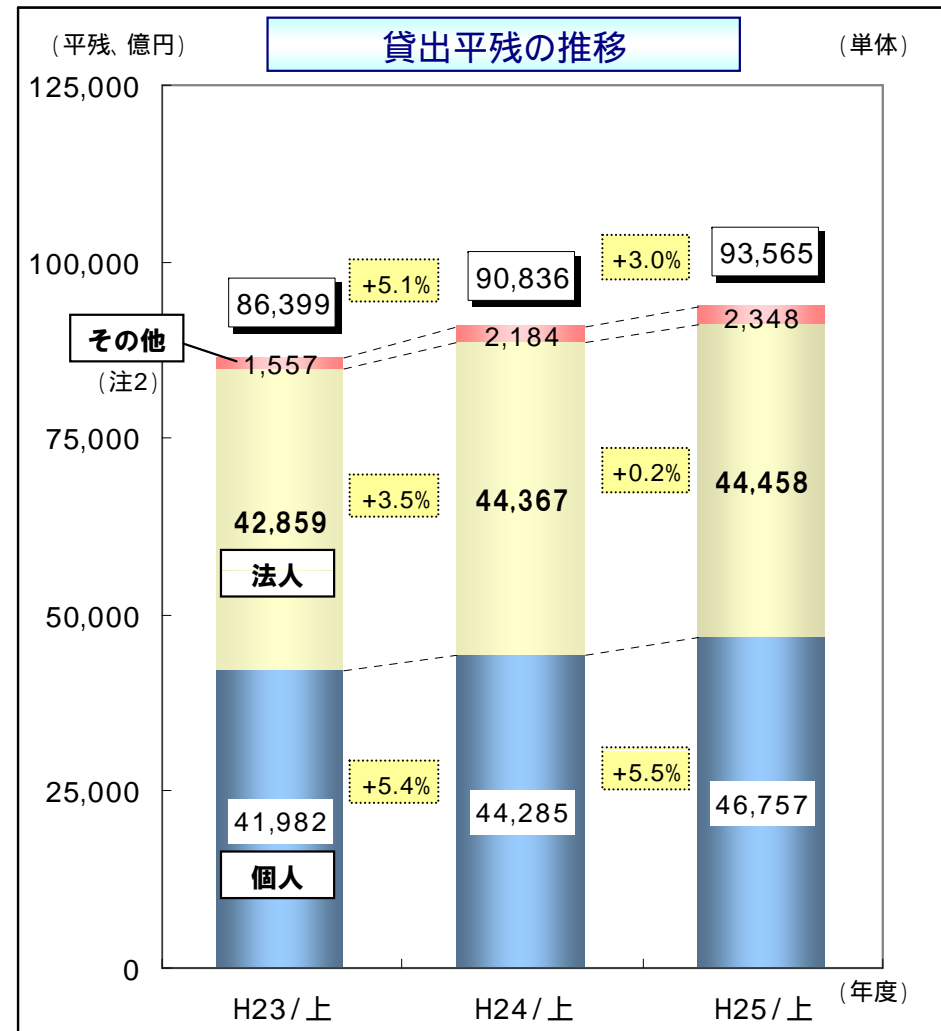
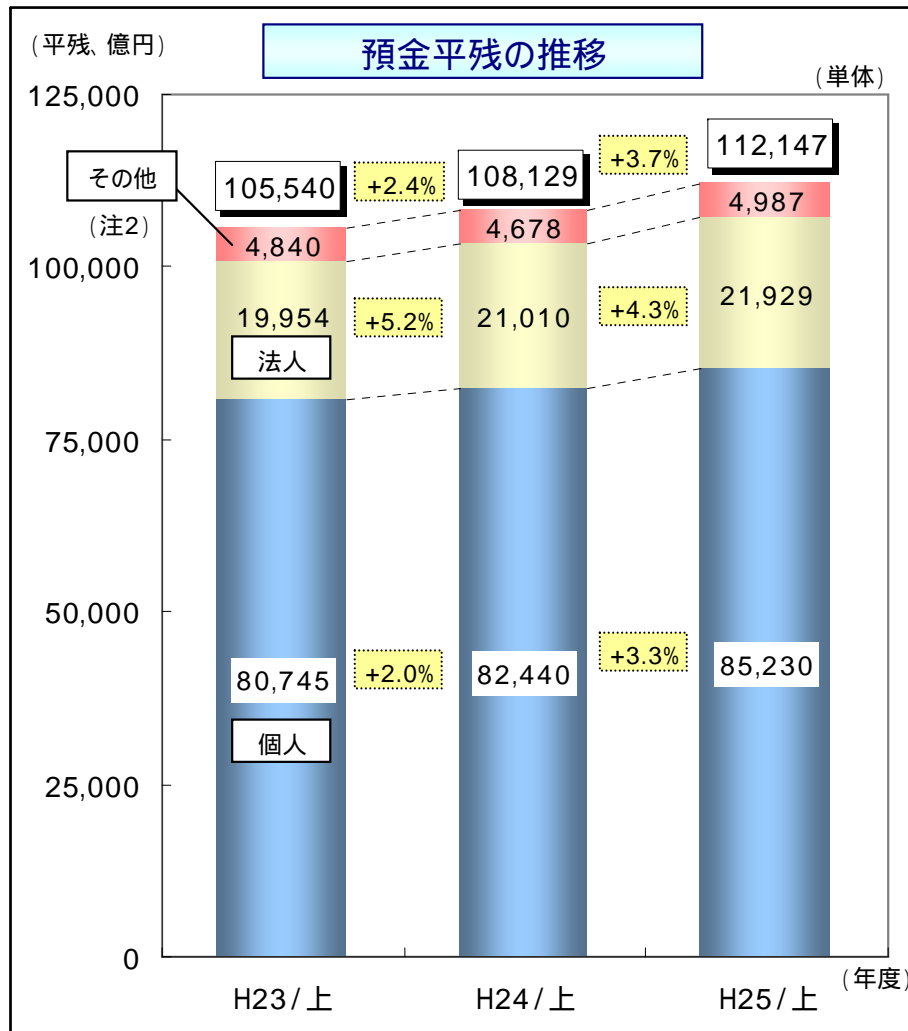
- お客さまの問題解決に資するソリューションを提供し、お役に立つことで、お客さまに選ばれる銀行をめざしていく。
- 特に、地域のお客さまとの接点拡大・取引の深化を追求し、さらなる成長をめざしていく。
- 健全性、収益性、成長性のバランスが取れた銀行をめざしていく。

	平成27年度における目標指標	平成24年度実績
個人メイン先数()	250万人程度	229万人
役務取引等利益比率(連結)	22%程度	20.0%
当期純利益ROE(連結)	7%程度	6.8%
当期純利益RORA(連結)	0.8%程度	0.82%
普通株式等Tier1比率(連結)	11%程度	11.28%
OHR(単体)	40%台後半	47.6%
与信関係費用比率(単体)	0.15%程度	0.16%

()「個人メイン先数」は、当行を中心にご利用いただいているお客さまの数(当行定義)。

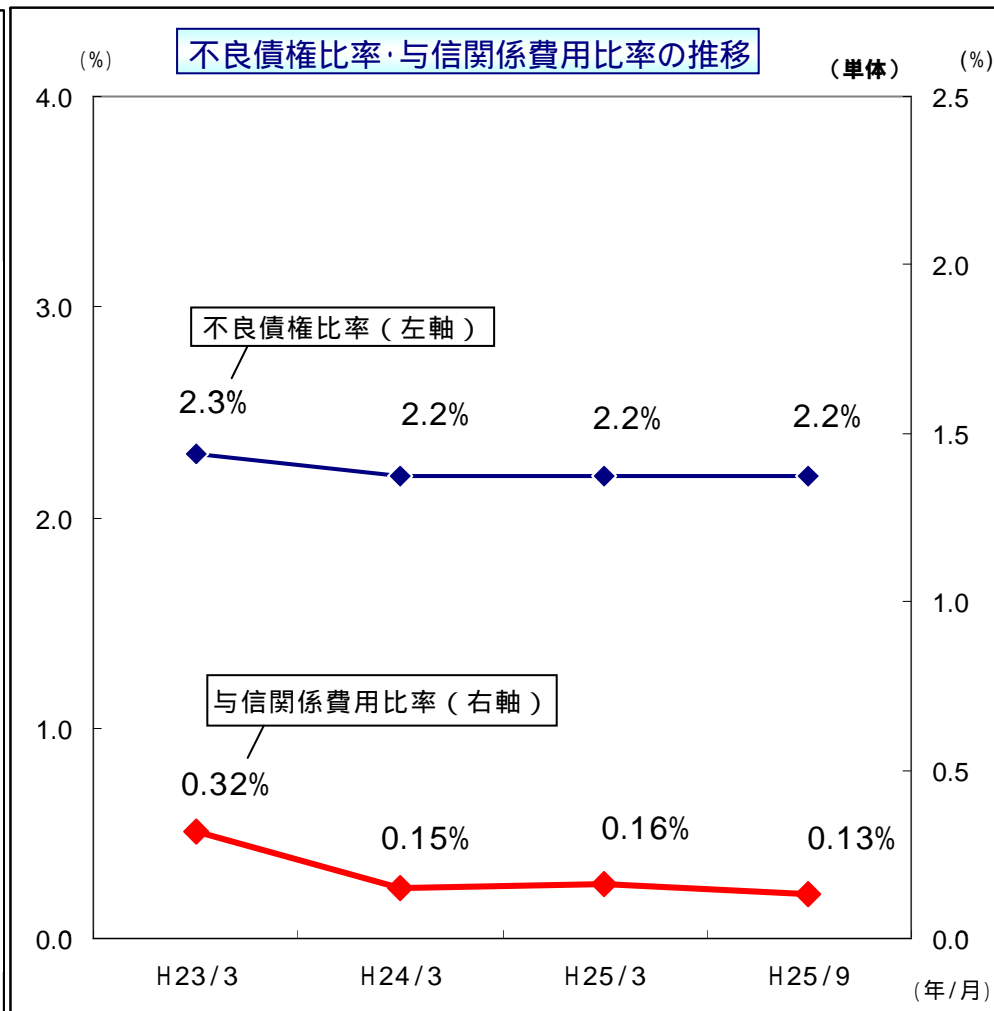
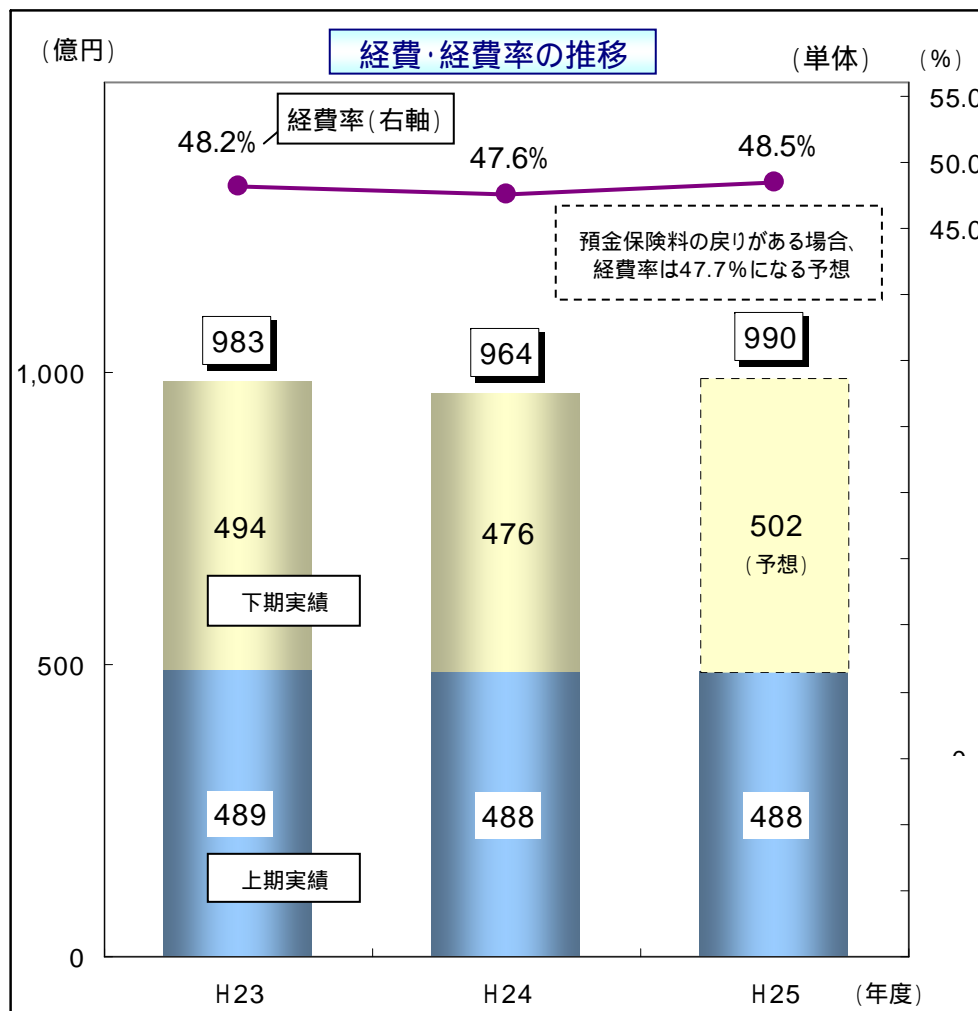
4. 横浜銀行の業績～高い成長性

- 堅実に増加している預金をもとに、円滑な資金供給をおこなうことにより、貸出金は力強く成長し、お客さま・地域社会に貢献しています。



4. 横浜銀行の業績～高い効率性、健全性

- 経費の削減につとめ、邦銀トップクラスの効率的な経営をおこなっています。
- 不良債権比率や与信関係費用比率を抑制し、高い健全性を維持しています。

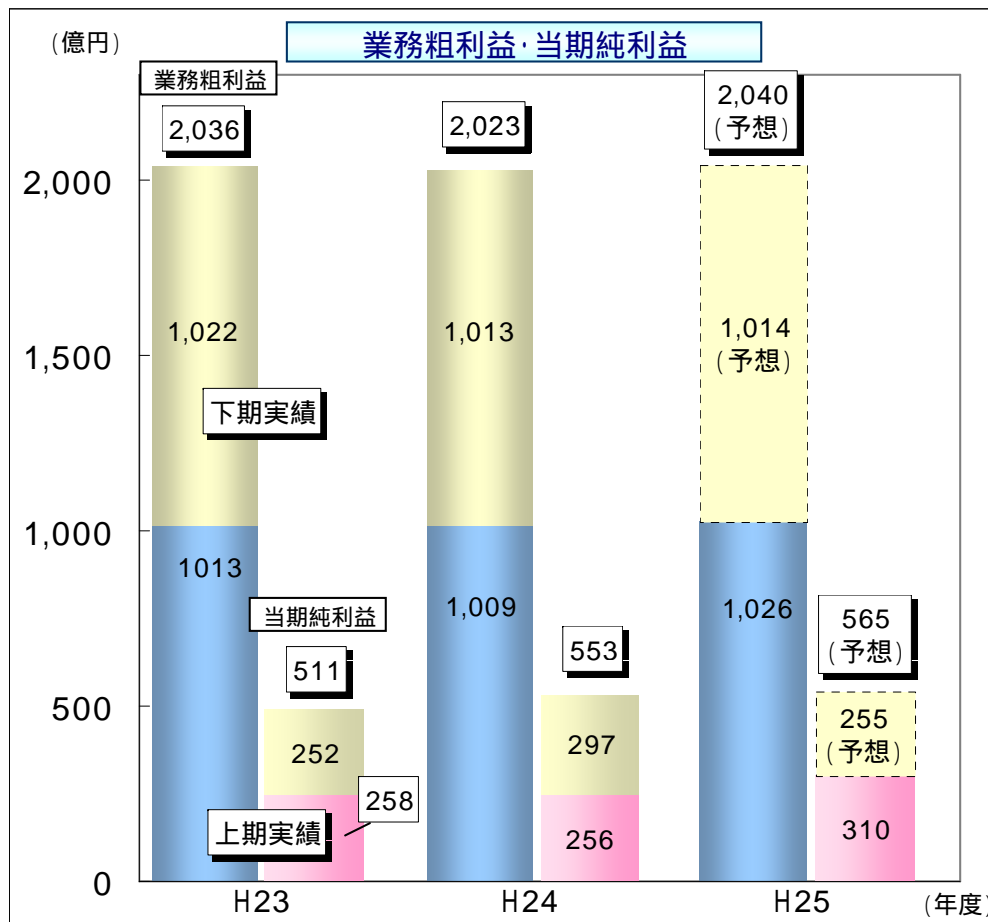


(注1) 経費率: 経費 ÷ 業務粗利益 (数値が低いほど経営の効率性が高い)
 (注2) 「預金保険料の戻り」は、年度内に金融機関の破綻等がなかった場合に預金保険機構に納付した保険料のうち一部が還付される見込み

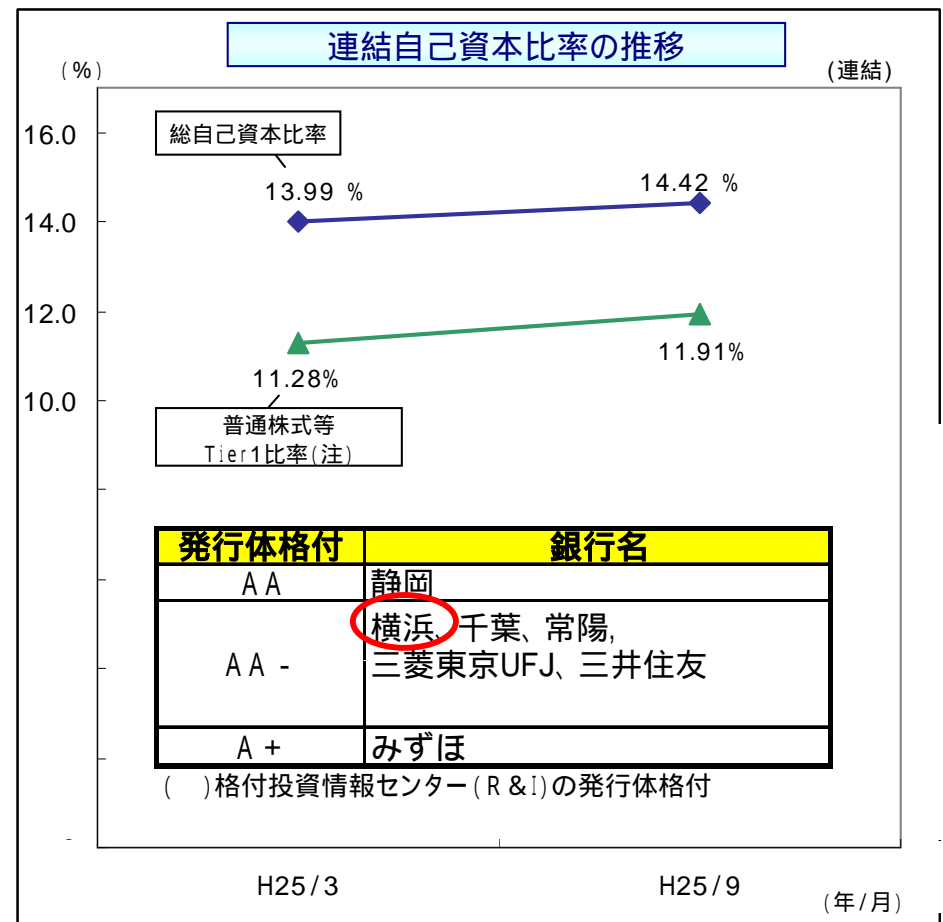
(注1) 与信関係費用比率(年度ベース): 与信関係費用 ÷ 貸出平残

4. 横浜銀行の業績～高い収益力と充実した自己資本

- お客さまと多く接点を持つことにより、お取り引きが拡大し、平成25年度上期は業務粗利益が反転しました。当期純利益は引き続き増加しています。
- 十分な自己資本と、安定的な経営基盤を維持しており、お客さまに安心してご利用いただけます。



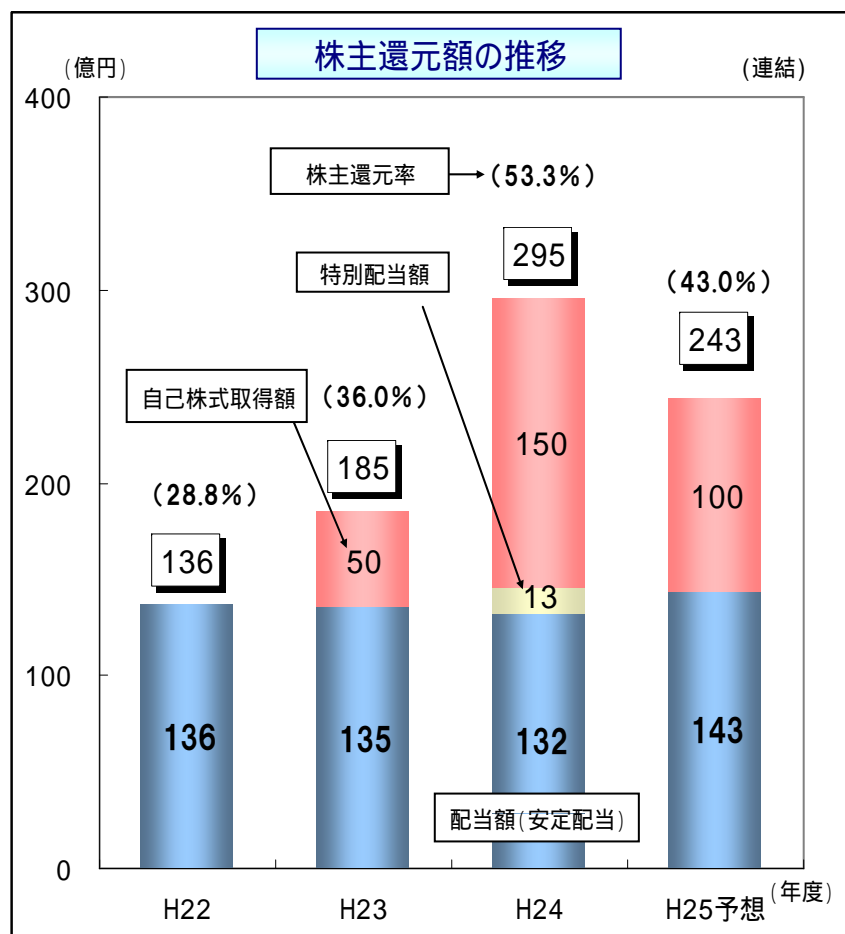
(注) 業務粗利益: 単体ベース 当期純利益: 連結ベース



(注) 経過措置ベース。完全実施ベースの普通株式等Tier1比率(H25/9)は12.45%。

5. 株主の皆さまへの取り組み～積極的な株主還元

- 平成25年度は、普通配当を1円増配し11円としました。
- 平成25年5～6月と11月～12月には計100億円の自己株式取得を実施しました。
- 平成25年度の決算を見据え、利益還元方針に沿った機動的な自己株式取得や特別配当を検討します。



(注) 株主還元率: (配当 + 自己株式取得) ÷ 当期純利益

横浜銀行の利益還元方針(平成25年度～平成27年度)

普通配当

普通配当金として業績にかかわらず年11円を安定的にお支払いいたします。

機動的な自己株式取得

加えて、市場動向や業績見通しなどを勘案のうえ、機動的に自己株式の取得を実施してまいります。

平成25年5～6月と11月～12月に合計100億円の自己株式取得を実施

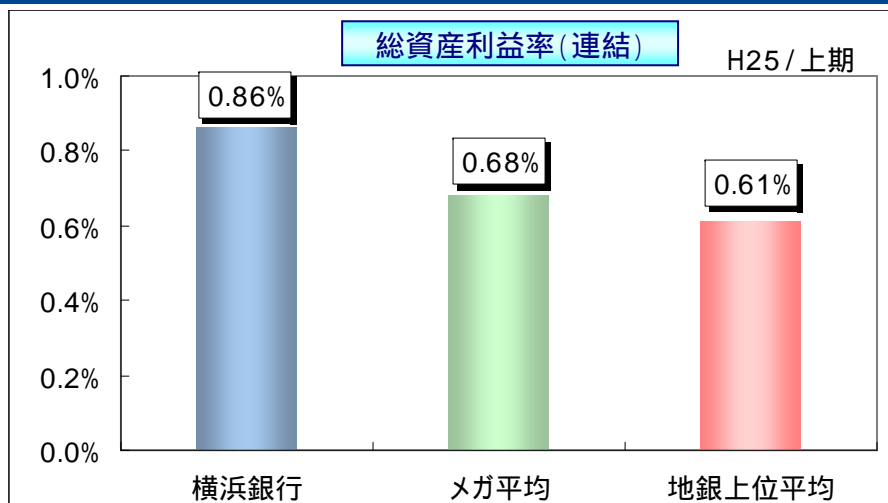
特別配当

年度の連結当期純利益が550億円を上回る場合には、特別配当を実施いたします。

6. 横浜銀行のパフォーマンス

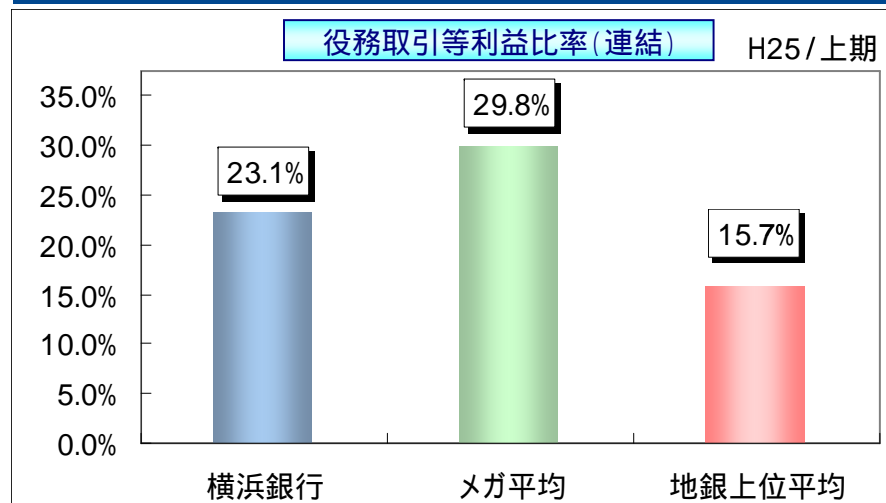
- 収益力、経費率、多様な収益源など、他の上位地方銀行に比べて高いパフォーマンスを発揮しています。

高い収益力



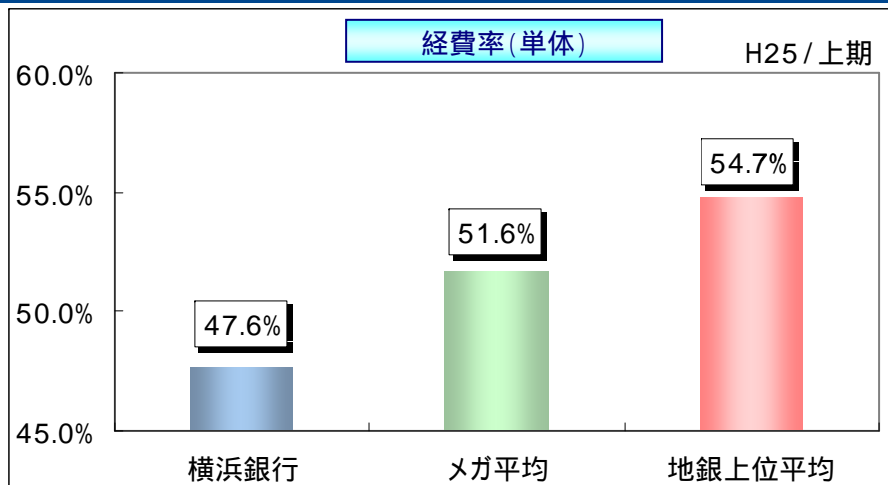
(注) 総資産利益率: 実質業務純益 ÷ H25年上期平均総資産額 (年換算ベース)

多様な収益源



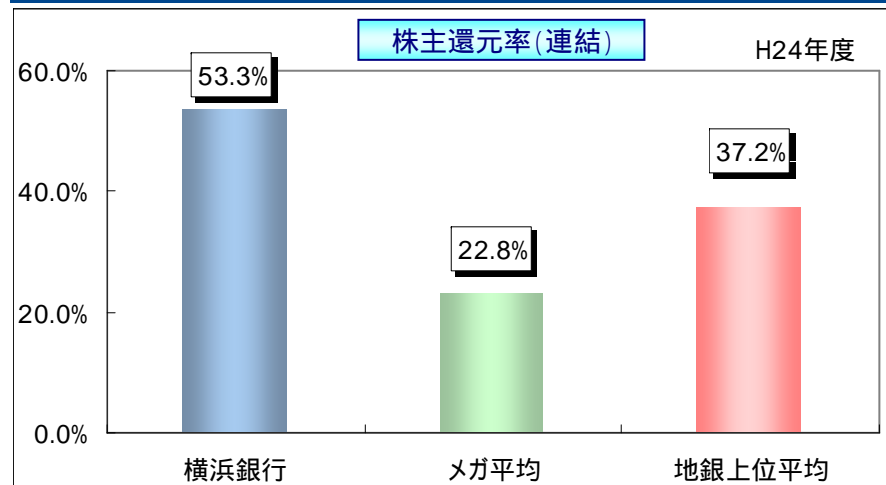
(注) 役務取引等利益比率: 役務取引等利益 ÷ 業務粗利益

低い経費率



(注) 経費率: 経費 ÷ 業務粗利益 (数値が低いほど経営の効率性が高い)

高い株主還元率



(注) 株主還元率: (配当 + 自己株式取得) ÷ 当期純利益

參考資料

参考資料

(1) 中期経営計画の進捗

	H24年度実績	中計1年目			中計3年目	
		H25年度計画	H25年度見込み (11月8日公表)	うちH25年度上期実績	H27年度計画	
単 体 ベ ー ス	業務粗利益	2,023億円	2,030億円	2,040億円	1,026億円	2,130億円
	うち国内役務取引等利益	317億円	356億円	375億円	187億円	370億円
	経費()	964億円	990億円	990億円	488億円	1,040億円
	実質業務純益	1,058億円	1,040億円	1,050億円	537億円	1,090億円
	与信関係費用()	151億円	130億円	130億円	65億円	140億円
	経常利益	864億円	870億円	875億円	456億円	920億円
	当期純利益	533億円	535億円	555億円	306億円	590億円
	OHR (中計目標項目)	47.6%	48.7%	48.5%	47.6%	40%台後半
	与信関係費用比率 (中計目標項目)	0.16%	0.13%	0.13%	0.13%	0.15%程度
連 結 ベ ー ス	業務粗利益	2,226億円	2,220億円	2,240億円	1,131億円	2,300億円
	うち役務取引等利益	445億円	480億円	510億円	261億円	510億円
	経常利益	950億円	935億円	945億円	495億円	1,000億円
	当期純利益	553億円	545億円	565億円	310億円	610億円
	役務取引等利益比率 (中計目標項目)	20.0%	21%程度	22%程度	23.1%	22%程度
	当期純利益ROE (中計目標項目)	6.8%	7%程度	6%台後半	7.2%	7%程度
	当期純利益RORA (中計目標項目)	0.82%	0.8%程度	-	0.95%	0.8%程度
	普通株式等Tier1比率 (中計目標項目)	11.28%	11%程度	-	11.91%	11%程度
個人メイン先数(注) (中計目標項目)	229万人	235万人程度	-	230万人	250万人程度	

(注)「個人メイン先数」は、当行を中心にご利用いただいているお客さまの数(当行定義)。

参考資料

(2) 損益の推移

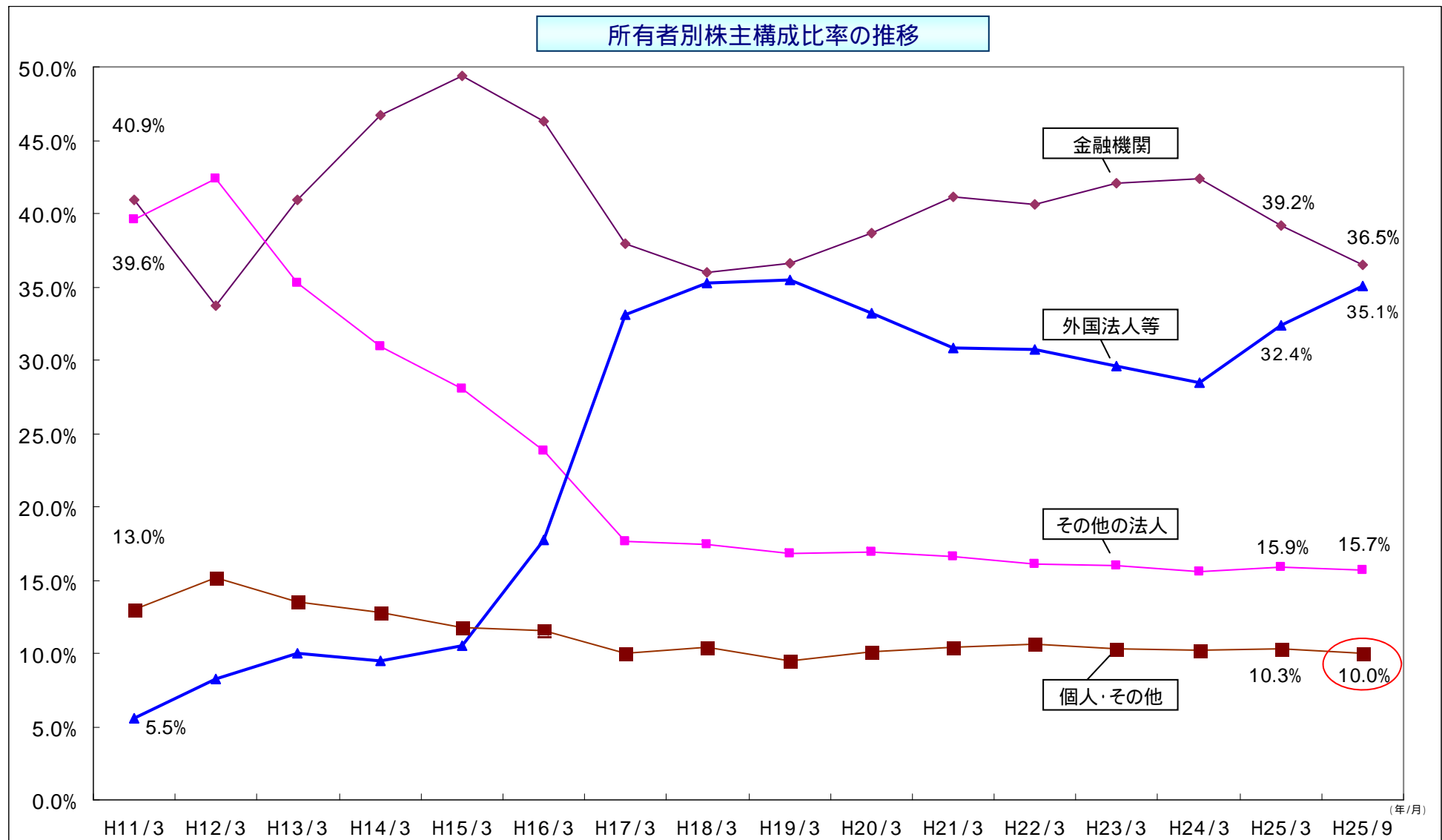
連結・単体財務損益の推移

(単位:億円)

	平成22年9月期		平成23年9月期		平成24年9月期		平成25年9月期	
	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結
業務粗利益	1,031	1,120	1,013	1,107	1,009	1,103	1,026	1,131
実質業務純益	535	586	524	584	521	577	537	596
与信関係費用	167	176	87	93	73	75	65	82
経常利益	333	365	411	458	393	444	456	495
中間純利益	203	211	245	258	245	256	306	310
預金	102,984	102,796	104,382	104,161	108,378	108,131	111,765	111,347
貸出金	86,362	85,988	87,684	87,339	93,159	92,721	94,035	93,548
有価証券	18,220	18,132	20,115	20,033	21,584	21,505	20,516	20,449
純資産	7,215	7,727	7,449	8,008	7,823	8,423	8,566	9,202
総資産	117,925	120,765	121,873	124,557	126,320	128,797	128,958	131,148

参考資料

(3) 株主構成比率の推移



Afresh あなたに、あたらしく。



Bank of Yokohama

事前に株式会社横浜銀行の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配付することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。